

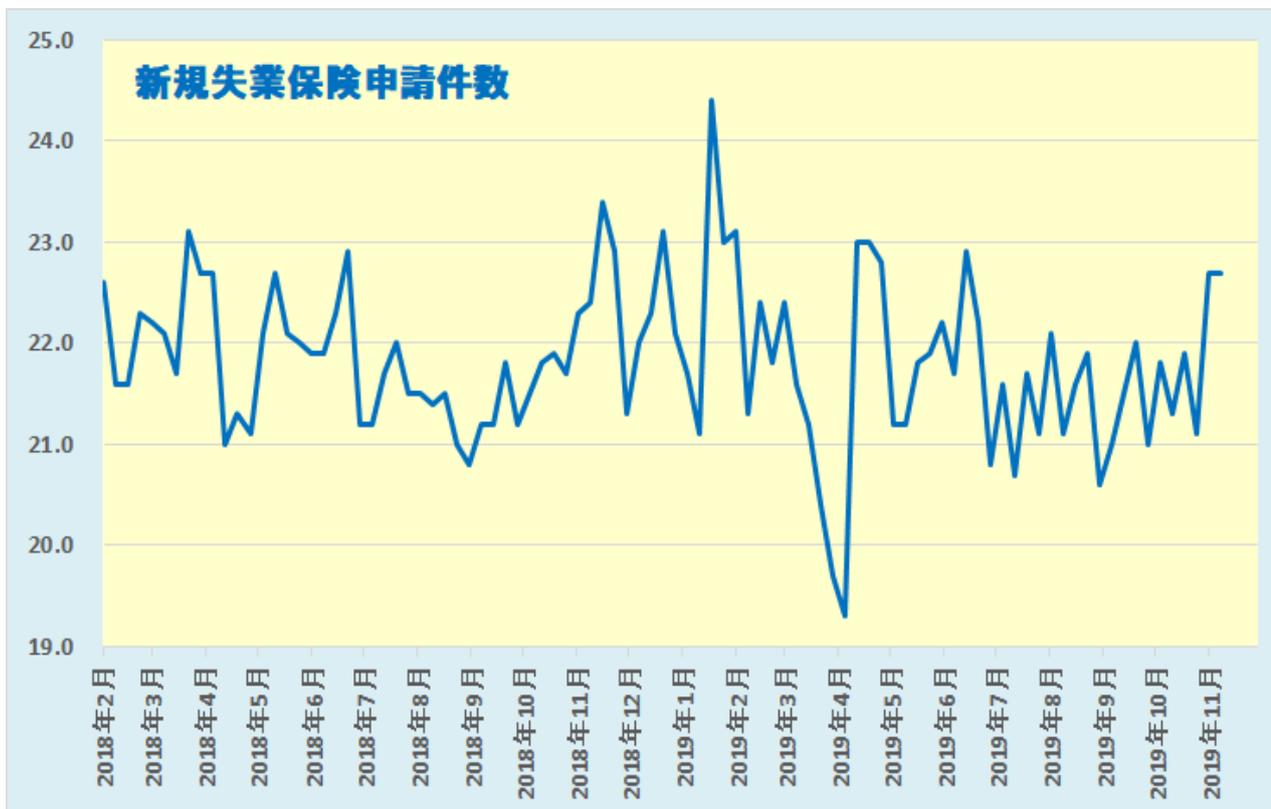
NY 市場レポート

主要な米経済指標の結果

新規失業保険申請件数 22.7 万件（予想 21.8 万件・前回 22.5 万件⇒22.7 万件）

失業保険継続受給者数 169.5 万人（予想 168.3 万人・前回 168.3 万人⇒169.2 万人）

米失業保険申請件数は、前週比横ばいの 22.7 万件となり、市場予想を上回る結果となった。申請件数の 4 週移動平均は、前週比+3500 件の 22.1 万件。一方、失業保険継続受給者数は前週比+0.3 万件的 169.5 万人となり、4 週移動平均は前週比+0.3 万人の 169.3 万人だった。



データを基に SBILM が作成

10 月中古住宅販売件数 546 万件（予想 549 万件・前回 538 万件⇒536 万件）

10 月中古住宅販売件数（前月比） +1.9%（予想 2.0%・前回 -2.2%⇒-2.5%）

10 月の米中古住宅販売件数は、市場予想を下回ったものの 2 ヶ月ぶりのプラスとなり、前年比では+4.6% だった。一戸建て住宅が前月比+2.1%の 487 万件、集合住宅は横ばいの 59 万件。成約物件の中間価格は前年比+6.2%の 27.1 万ドル、平均販売価格は+4.7%の 30.8 万ドル。地域別では、北東部が-1.4%の 69 万件、中西部が+1.6%の 129 万件、南部が+4.4%の 235 万件、西部は-0.9%の 113 万件だった。



データを基に SBILM が作成

10月景気先行指標総合指数（前月比） -0.1% （予想 -0.2% ・前回 $-0.1\% \Rightarrow -0.2\%$ ）

10月の景気先行指標総合指数は、市場予想と一致し3ヵ月連続のマイナスとなった。3ヵ月連続のマイナスは2016年2月以来となった。



データを基に SBILM が作成

ダウ平均、S & P 500 は 3 営業日続落、ナスダックは続落

米株式市場は、米中通商協議に対する警戒感や、香港問題を巡る米中の対立懸念を背景に、主要株価指数は軟調な動きとなった。ダウ平均株価は、序盤から軟調な動きとなり、序盤に前日比 112 ドル安まで下落した。その後、一時プラス圏まで値を戻したものの、終盤にかけて再び下落し 54 ドル安で終了。一方、ハイテク株中心のナスダックは 20 ポイント安で終了した。



データを基に SBILM が作成

セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	消費財	-1.15%	1	P&G	-1.59%
2	消費者サービス	-0.56%	2	3M	-1.57%
3	資本財	-0.56%	3	ボーイング	-1.21%
4	金融	-0.30%	4	ウォルグリーンBA	-1.17%
5	テクノロジー	-0.09%	5	ホーム・デポ	-1.07%

データを基に SBILM が作成

ドル/円・クロス円は上値重い

NY市場では、英総選挙に関連する世論調査で保守党優勢との報道を受けてポンドが上昇し、ドル/円やユーロ/円も連れ高となった。ドル/円は、序盤に一時108.70まで上昇したものの、序盤に発表された米新規失業保険申請件数が予想より悪化したものの、10月の米中古住宅販売件数が2ヵ月ぶりのプラスとなるなど、米経済指標が強弱まちまちの結果となったこともあり、上値の重い動きとなった。さらに、米中通商問題や香港問題を背景とした米中対立リスクも意識されており、その後のドル円・クロス円は上値の重い動きとなった。また、米主要株価指数が軟調な動きとなったことも圧迫要因となった。一方、英最大野党・労働党が総選挙向けのマニフェストを公表し、富裕層や金融業などへの増税の一方、90%超の国民が恩恵を受けるばらまき型の内容が選挙戦に及ぼす影響が懸念されポンドがドルや円に対して下落した。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。